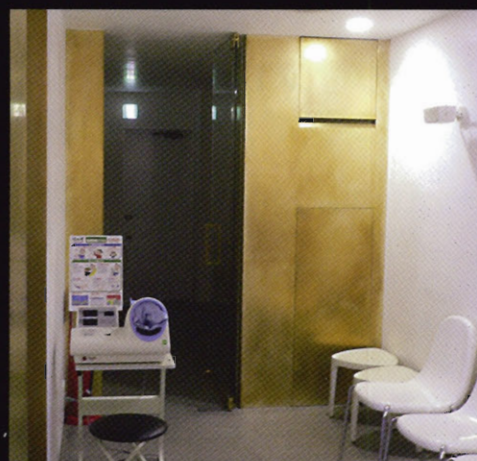
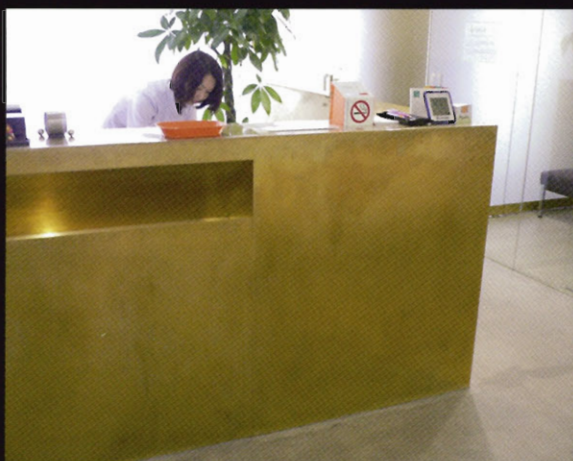


院内感染の予防に
黄銅を内装に使用 「落合クリニック」(千葉県浦安市)

殺菌・抗菌作用に優れた黄銅板を環境表面に全面採用し、発熱外来に対応



LOOK
1

患者さんの手が触れる「環境表面」に黄銅板を採用

LOOK
2

黄銅は院内を衛生的に保ち、患者さんの気持ちも癒す

2010年春、千葉県浦安市にある「落合クリニック」が、NIKKEI-CNBCのニュースに取り上げられた。いまこのクリニックは、院内感染予防を狙い、内装のあらゆる箇所に黄銅を使用した世界初の「抗菌クリニック」として注目されているのだ。

...

院内感染の予防では、患者さんの手が触れる部分＝環境表面の衛生状態の管理が重要となる。

そこで設計にあたった高橋堅氏(高橋堅建築設計事務所)は、銅、黄銅の殺菌性能に着目。ドアノブ、ドアハンドル、待合室の壁、受付デスクなどの表面に黄銅板を大量に使用した。

...

院内感染の主な原因とされているのは、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌、緑膿菌、大腸菌などである。銅、黄銅は、これらを短時間で激減できることが実験で実証されている(裏面参考データ)。さらにインフルエンザの感染拡大への予防にも、抗菌クリニックの効果は期待されている。

...

落合クリニックがリニューアルオープンしたのは、2009年10月。黄銅が放つやわらかな金色の色合いは、この数カ月の経年変化により、さらに重厚な風合いをかもし出している。

「内装がきれいで気持ちが癒される」と患者さんの評判も良いですよ」と落合康博院長。

「今後も長い期間、黄銅の抗菌・殺菌性により院内を衛生的に保てると期待しています」。



落合クリニック/落合康博院長

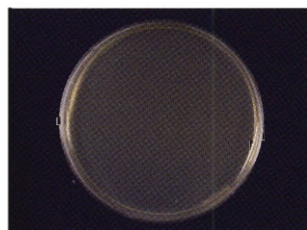
銅、黄銅により細菌数が減少することを細菌検査にて実証

世界初!! 黄銅をまとった「抗菌クリニック」

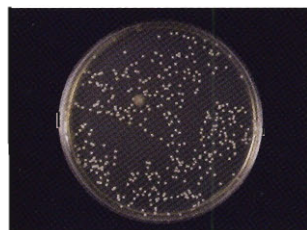
●細菌検査



●診察室のドアハンドル (黄銅製)

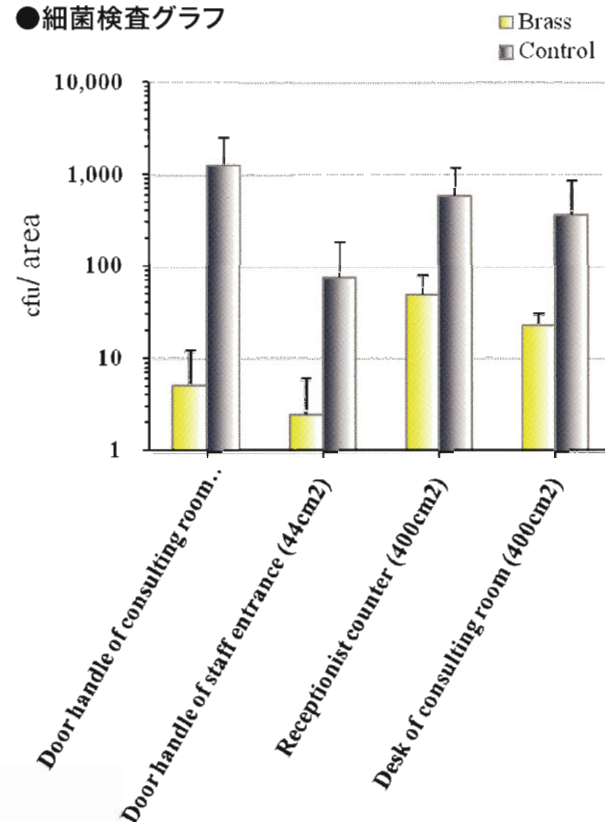


●診察室のドアハンドル (フィルムを貼って抗菌作用を阻止した場合)



黄銅製のドアハンドルでは、菌の繁殖は確認されなかった

●細菌検査グラフ



上海万博 チリパビリオンで 環境表面シンポジウムが開催

上海万博/チリパビリオンで10日間にわたり、銅に係るシンポジウムが開催された。

このシンポジウムで「落合クリニック=抗菌クリニック(Brass Clinic)」を設計した高橋氏が講演を行った。材料選定の根拠として銅、黄銅が殺菌特性を有すること、色合いを考慮したランダムオービックサンダー処理を採用したことなどを説明し、中国の医療、建築関係者などの注目を集めた。

また日本からは、北里大学 医学部笹原武志先生が招かれ、北里大学病院での研究を中心に、銅および銅合金の殺菌特性と実際の病院での感染低減に関する講演を行った。上海では日本同様に高齢者が多く、高齢者医療と環境表面の衛生管理に対する銅の係わりに関心が高まっていることが伺えた。

